WASON
HQ
1104
J74

驛遞局認可

明治十九年十二月廿五日刊行

女學雜誌

毎月三回發兌
一冊正價五錢
一ヶ月十五錢

第四十五號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 45. December 25th, 1886.

第四拾五號

EDITORIAL: Women of Japan in 1886.

LEADING ARTICLES: Mr. H. Kato's lecture on "The Oriental Idea of Woman's Position in Life."

MISCELLANIES: Toinette and Ebb.

BIOGRAPHIES: Cratesiclea; A Women No. VIII. (concluded); A Chinese Merchant's Wife; Shōyōjin.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENT.

●社說 明治十九年を送る

●論說 加藤弘之君男尊女卑の是非得失講演速記(二)

●談話 クリスマス佳話刀根女の改悔

●佳傳 クラテシクレア賢とある事○松崎佳人傳第八回(完了)○周茂才の妻○昭陽人の恨

●寄書 田舎婦人改良の一端(黒須りう女)

●新報 十五則

●廣告

"And there were in the same country shepherds abiding in the field, keeping watch over their flock by night And, lo, the Angel of the Lord came upon them, and the glory of the Lord shone round about them; and they were sore afraid. And the angel said unto them, fear not: for behold, I bring you good tidings of great Joy, which shall be to all people. For unto you is born this day in the city of David, a Saviour, which is Christ the Lord. And this shall be a sign unto you: Ye shall find the babe wraped in swaddling clothes, lying in a manager. And suddenly there was with the angel a multitude of the heavenly host praising God, and saying, glory to God in the Highest, and on earth peace, good will toward men."

———:○:———

A greeting by my page I send
To thee on Christmas Day, my friend.

○クリスマスの紀念

近傍に羊を牧ふもの有けるが野に居て夜その群を守りたりしに主の天使きたりて主の榮光かれらを環り照しければ牧者おほいに懼れたり天使これに曰けるは懼るなかれ萬民に關したる大なる喜の音を爾曹に告ぐ一うれ今日ダビデの邑に於て爾曹の爲に救主うまれ給へり是主たるキリストなり爾曹布にて裹し嬰兒の槽に臥たるを見ん是うの徵なりと忽ち衆の天軍あらはれ天使と共に神を讃美て天上にては榮光神にあれ地にては平安人には恩澤あれ

女學雜誌第四拾五號
明治十九年十二月廿五日

●社說

○明治十九年を送る

日月早々に過行きて今年も最早や數日となりぬ櫻花爛熳たる春の景色は昨日の夜の如く河風涼しき夏の夜の納涼は尙ほ衣の下に覺わり特にさえ渡りたる月を眺めて名月の吟遊を催したるは只昨夜のやうに思はれて樂み未斷ざる時忽ちにして霜降り雪催して寒風凛烈たる此の冬天とならんとは古人が光陰の速に去るを白駒の隙を過るに喩ふ抑も所以ある哉

然るに人は年々當世の過客となつて年々果して何如の事をか爲す榮枯盛衰浮雲の散じて又集るが如く起伏興敗草花の落ちて又開くが如し如此き轉變そも何の爲ぞ、曰く、たゝ完美の地に達せんが爲め也故に人世は太空に曳渡したる一本の線を懸たり人皆な之を渡らんと欲して左右前後に戰兢す

或は之を踏あやまりて奈落の底に陷る者あり或は之に吊るし懸りて進退する能はざるものあり彼のよく之を渡り過ずものは即ち彼岸の天堂に達して永生の極樂を得るに比す人間万事の決極終に皆玆に至らんとを欲するにある也

之を以て日夜の困苦難からざるに非ず一生の勉勞勘きに非ずと雖ども吾人若し自ら顧みて其經過したる跡を思へば困苦を踏破りたるの樂は勉勞を報ゆるの實と共に累々たゝ之を見て焉んぞ樂しからざらん吾人明治十九年中女流の進歩を思ふ時は實に此感の切なるを覺ゆるあり

思に日本の女論は明治十七年中に初て其萌を發し昨十八年に於て盛んに成生したり然るに當十九年中に於ける其成長は彌よ前兩年に優り確固たる果實を結ぶに至りたるもの尠からず

○○女德の上に就て之を云はゞ年初早々に藝妓退斥論盛んとなりて岐阜鹿島の如き邊陬の地方も尙ほ宴會に之を招かざるとを議決したるものあり秋の比ひには外山君の藝妓廢斥論ありてより一時彼此の論難あり必竟諸人をして之を卑むの感覺を懷かせたる効能少しとせず特に經濟雜誌及び吾女學雜誌に於て唱妓の事を論辨したる以來所々に於て亦之を議するものあり必竟亦諸人をして之を卑むの感覺を懷かせたる利益少しとせず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

就中かの報知新聞がノルマントン事件義捐者中へ娼妓にまぎられしき者等の姓名をだも揭載せざるに至りたる類は吾人が尤も斯道の爲に慶賀すべきとあり、其外浴湯の改良、謠曲の制治、絹布縮緬の取締、等は皆延いて女德の進步に關係あるものなり。○女風に關しては六月廿三日宮內大臣の布達ありて服制の規則改まりし以來　皇后宮先づ洋服を着けさせ玉ふ御事にありて下々にも其風急に流行し今は高等女學校を初め所々の學校小學校等に於ても多く女生徒に洋服を着用せしむるの景况とあり又一旦衰へんとしたる束髮の風再興して今や禁制會の貴婦人等相約して此風に擡上げすべき定を設けられたるの有樣あり是れ共に是非の議論少からぬとと雖も要するに女風の上の進步として見るべきものあり。○又女論に關しては本年を以て尤も確實ある議論を得たるの時となす矢野文雄君の西洋男女の關係、外山正一君の女流改良策一篇、等を初めとして日々新聞及時事新報の兩紙上に現れたる時々の論說は要するに去年中へ現れしたる者と全く性質を異にすと云べし特に當年はメール、インデペンデント、等の洋字新聞紙上に於て婦人の正當の地位を論辨せる者あり其他撰選の學士にして熱心に婦人論を演說する者あり概ね皆な前年に超えて緻密ある所論を女論の上に供えたり。而て此等の事皆な多分の進步を當年中に於て收め得たりと雖も然れ共其尤も著名ある進步を現じたるものは即ち女子に關する學校と集會との二種あるべし

今試に當年中に於て新設ありたる女子の學校及び今將に新設あらんとする同樣の學校中其主あるものを列擧すれば大抵左の如し

東京看病婦講習所　東京高等女學校
東京女子職業學校　大坂府立女學校
仙台英語女學校　京都看病婦學校
私立岡山女學校　岡山山陽英和女學校
福島縣中村女學校　大坂一致女學校
大坂産婆講習所

又試に當年中へ於て新設ありたる女子の集會中その主ある者のみを列擧するも倘左の如く夥しきを見るあり

東京女子交際會（吉田氏發起）　東京婦人交際會（丸岡氏發起）
東京海軍々醫夫人會　東京貴婦人交際會（米國公使夫人發起）
東京婦人智識交換會（工部省關係の人）　東京婦人矯風會
東京産婆會　福岡婦人同作會
福岡婦人協會　岡山女子原泉會

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

仙臺婦人談話會
横濱婦人交際會
淡路婦人金蘭會
神戸婦人禁酒會
長岡女子親睦會
安房宏睦會
廣島婦人會
京都婦人集談會
西京婦人唱歌會
岡山婦人禁酒會
前橋婦人會
和歌山婦人會

抑も學校は養成の地にして集會は運動の場所なり今ま女子に關する學校及び集會の增加すると如此く多し之より我國の婦女子をして少壯ともに各其地を得させて之が進步を促すと必ず多かるべし故に吾人は此二事を以て當年中の女事進步の莫大なりしとを証するに十分なりと信ずるもの也

終に於て吾社も亦た此盛運の機に會し非尋常の幸福を得たり顧れば去年今月今日女學雜誌第一回の改良を施し毎月三度の發行と定めたる以來正に一週年なり此間社員近藤賢三社賓木村とう子早世して紙筆不可述の悲歎を受たりと雖も天往者と留る者との志を憐み襄に社を移して益す事業を擴張するの運に達らせ玉へり是れ一に皆な太平の幸福と云ふべし願らくは來る所の年も亦た斯道の進步著明にして日本女流の地位更に大に進捗せんとを

●叢話

○佳クリスマス話　刀根女の改悔

十二月廿五日はクリスマスと申して開化の國々にては正月の樣に祝ふ時なり我國も西洋の風習次第に行るゝより夙に此の儀式を行ふ家も尠からず玆に都の或るあたりに饒かなる一家ありて子供三人四人あり姉の利根と云へるは生得惡しき質にはあらねど氣儘にて兄弟を慈しまざれば始終親しく暮らそともなかりき然るに一昨年のクリスマスの前夜月さへ渡りて庭面の景色の面白ければ明日は何如にして遊ばんなど思ひ煩ひ立ずみたるが足元にて何やらん少き聲の聽へたり不思儀やと思て耳欹つれば正しくそゝり泣するやうなりさても何處に泣く人あるにやと腰を屈めてよく〳〵注意すれば此は如何に拇指ほどの小さき人がたゞめそ〳〵と泣にてありき。チヤお前はなんだエマー可笑ひとチー。そゝり泣したる小さき人は身に緑の衣を着け手に羽うつたる小き帽子を持ちたるが。コレ〳〵利根左樣の事云ひ玉ふな何が可笑からう其樣なと云はるゝとアーア胸が張裂やうに思はれます。チヤマー私の名を知てれ出のかへ而してお前ハ何故そんなに小くて又泣いてお出のだへ。コレ〳〵私は小いとれありませんが此程十分に成長した福

人ですお前でも若御馳走に行く途中で此様に鉛で突れたらどうして悲しうおるまいぞや此れ御覧なさい。トア後を示すに刀根は顔をさし出してよく視れば精微の刺繍の衣にさゝりて彼の人を動かさゝるにてありき。此ですかへ私が取て上ませう。ナヽヽを止なさい此衣が破れたら何様しませう新規に造へたんですよ。ナニ破らない様にして取れますよ。ト云ひ乍ら刺繍を静かに外づしたり。婦人身自由になりたれば廻りに後を見てありしが僅に小き穴の開きたる迄にて衣に損になければ初て満面に笑を呈して。真に有難ふ刀根様。ナニもつと早く分つたら取て上るのでしたが少しも見なかつたから。ハヽア其帽です私が此帽子を斯ふ冠るとそれ見へますまい。チヤ〳〵マア何處に居ます。へ昇斗り覗て。ハヽア左様でせう此帽子に種がわつて其此を取ますとソレ見へませう。チヤ夫じや私よ其帽子を貸て下さいな。何様して斯な小い者が冠ますものか然し私を助けて下すつたからヨロシヒ御禮に人に見へなくなる秘傳を教へませうソレはあなたの靴の中に総と半個の實を入て置ますと夫がある間は乾度人に見へません今夜寝所の窓を明て置なさい其種を持参しますから。先づ夫迄は刀根様サヨーナラ。ト形は消て失せにけり

刀根は忙然として心に疑ひ乍ら家に歸れば姉さん何處に行て居たの先刻の約束ですから、サ、御話をして頂戴。アー最いやですよあの母様に御願なさい。イヱ母様は御世話いから姉さんヨウ仕て頂戴と云つたら。イヤだと言つたらイヤですよ。妹の善は怨めし氣に詠め乍ら去りぬ

刀根は二階に登りて寝床に入り乍ら開き置たる窓の透間より洩る月に妖の形など思ひつゝけ疑ひまよひて考へ沈みたるが何時となく眠りたり然るに暫し經つてザハ〳〵響きするにふと目覺むればかの小さき婦人は数多の仲間を引つれて續々と入り來り刀根の寝臺の上に立てにこ〳〵と會釋したり。刀根嬢先刻は真に有がたう約束通り持参しましたよコリヤ平公其箱これへ持て。平公と云へる奴は瓜の種程の箱をいと重げに切々と荷ひ來り大息ついでドッサリと下しさても奥さん重いぞや々々〳〵シッカリ御禮を頂戴したい。コリヤ何を云ふ此方は拙者の大恩人ジヤソさて刀根嬢。コレ〳〵蓋をあけい。偖刀根嬢此の種をあなたの靴に入て置けバ其種がある間は決して人に見ませんア、入ませうか、否になりましたら振つて御出しなさい亦元の通に見ますから。針の如き手を箱に入て種数粒を取出し脱棄てたら刀根の靴に入てさて刀根嬢之で宜ひコレ〳〵

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

皆の衆よく御禮を申して下さい左樣なら〳〵と暇そこ〳〵窓を出れば衣の翼は月の光に照り帽の羽は風にたゞよひて何處ともなく飛行きぬ。

夜も明ぬれば刀根は例の如く起出で丶かの靴を穿ち二階より降り立ちて臺所に來て見るに母は朝飯の仕度に餘念なし偶ま風と當方を眺めたれど刀根の目に附かざるにやアー最早子供等を起さバやと楷子段の下に至り善や馬太や鞠や御膳が出來ましたからモーお起なさいと呼び乍ら而して刀根は常も先に起まするのに今日は何如しましたらう鞠や刀根はまだ起ませんかヱ。姉さんは居ませんよ室の戸が開て居ますからモー夙にお起なすつたのでせう。夫は不思議なと先刻から私は此所に居たのに降りては來ませんが何如しましたらう大方外に行ましたか刀根や刀根やと呼乍らいと不審顔せる母の目前に刀根は何更不思議に思ひ左ては昨夕の話の如く我身は人に見へざるよとぢつと忍びて立ち居たり

斯て三人の子供はそれ〳〵手洗を遣ひて朝飯の

膳に座はり母より與ふる汁物を受取ながら。鞠、姉さんは何處へ居らしたろう。馬太、大方狼にでも食れてしまつたんだよ。善、アー左樣だと善いとねーッーすると私しや母樣に云ふて姉さんの針箱を皆な貰つて仕舞わ

刀根はパット顏を赤らめて身振るひし眼に涙をうるませたるが又腹立しさに爪もて善の耳を傷んとし乍ら吾身は見へずなるものよと心付きて手を引きぬ然れど腹ひもじうなりて耐がたければ善の前に置たる汁物をそと取りて食べぬ。母さん汁物を頂戴。チヤーマア今あげたのに大層早うお食りだねー。知らない間に無なつて仕舞たわ。刀根は可笑さを忍びて此度は馬太の汁物をそと食べながら飯と汁を落しぬ。チヤ誰だへ私の額に湯をかけたよ。誰がお湯をかけます者かねモット静かにしてお食なさい騒しってはなりませんよ

朝飯も了れば三人は快よく話し乍ら刀根の見へざるを心にもとめざる樣なり。姉さんは何處へ行つたろう彌そ歸らなければ好とねー。左樣ねー姉さんが居ない方が面白いわ。姉さんが居ると何時でも邪魔計りして本當に惡い人だよ」刀根は吾身の見へざればとて目前にさまぐ惡口せられ悲しさ口惜しさ限なく泣出さんとするを漸くに堪へて庭に出でたるが力もなげに森の木影に座はりつゝ

あゝ何如して皆は私が惡んでせう。ソウぐ昨夜善が私に御話を仕て下さいと云ましたから嫌だと強く言ましたがあの樣に云ふのを嫌うんでせう。而して此間私が馬太の球を火の中に投て焼ましたし鞠と一處に遊びに行うと言つて置て連て行ませんでしたが……あゝ皆な私が惡かつたのです私が親切に仕なかつたから夫であんなに惡むでせう

此時刀根の心の中より微と少き聲にて呼ぶものあり刀根よ汝は斯る事を止めて此後は何事にも親切に仕玉ふとは出來ませぬか。出來ますとも屹度仕て見ませう。と心に問ひ心に答へ乍ら斯ても此軀は不吉の者やと腹立しさ取すてゝ走り歸れば母は門邊に立ちたるが。刀根何處へ行つて居ました。刀根は眼をうるませて走り寄り母にひつしと抱き着て身を振ひ乍ら

母樣これまでは皆な私が惡いから大勢に惡まれます此から親切に仕ますから母樣も可愛がつて……………

何を言ふのかヱチー落しく而して大層冷へて居ます風を引ては惡いから二階に上つて最少しお休み今ま温かい者をてしらへて上るから

斯て一時餘り寢たる後刀根は心地すが〳〵しくなりたれど今朝の悲しさに心も塞がりたり之よりは何事にも親切を主にせんと思へば先づ物の言いざまより立居振舞まで万に氣を配りてひたすら同胞をいつくしみ前日とは打て變りしやう身をつゝしみたるが折々は昔日同胞等が吾をそしりたるとの思ひ出されて此世を墓なく觀ずる時もありけり然るに月日は矢を射るやうに走りて早くも去年のクリスマスに近き比とはなりけり

或夜刀根の寢ねたる部屋の戸をほと〳〵と叩くものあればそと起出でゝ少しく窓を開き打見れば此透間より飛入りてメーリークリスマス(御見出度)と言ひ乍ら大人らしく挨拶して會釋する聲きこえぬよく〳〵之を見れば去年の福人なり。刀根孃去年の秘傳は如何でした。アーモー眞につまらない目に會ました夫から以來は少しも樂みがありません。イヤ夫は左樣じやあ無いのですから最一度なさいませ種を入ませう。イエもう懲り〳〵ですから止ませう。ナニ是非最一度なさいまし今度は屹度面白う御座いますからとて無理に例の種を靴の中に入れて暇乞さへそこ〳〵に又飛び行きぬ

漏たくるまで寢すぐしてクリスマスの朝と云ふ日刀根は例よりも遲く起き出でゝ急ぎ靴を穿ち二階より降立てバ三人の同胞は早や膳に向ひクリスマスの遺物にせんとや木もて造れる舟を飾り刀根の來るを待ちけり然るに今ま刀根の來れるが目に見へざるにや三人は空しげに待つゝ物語るやうは

善。姉さんは何故來ないのでせう母樣早く起して頂戴

母。なぜ左樣に姉さんが戀ひかね最少し御待今に來ますよ

馬太。母樣御覽なさい姉さんが此舟を見るとびつくり仕ますよ目が大きくなつて而して頰を赤くしますよ

善。孝さん所の姉さんが善いと云ますけど內の姉さんの方が餘程好いわねー

鞆。本當に姉さんの親切にお成なすつたとねー去年のころ丁度今日でしたねーいろ〳〵惡いとを言ましたッケ

善。母樣早う姉さんを呼んでくださいよ

刀根は喜ばしさに眼もうるみて靜かに二階に登りそと例の靴を脫ぎて餘の草履を穿ち降り來れバメーリークリスマスと呼び立てゝ三人の同胞はいだき着きぬ

斯て此四人の同胞は尙さらに親しみ愛して此一年を送りたれば今年の今日は將た何如に樂しく祝ふらん思ひやるだに最とめでたし〳〵

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

論説

○加藤弘之君の講演（男女尊卑の是非得失）

筆記（前號の續き）

今の歐羅巴の學者の言ふ所の道理を考へると「男が權を執ッて女をいぢめるといふ風俗は野蠻の國に行はれる、して野蠻の人民は道德倫理を知らぬからである、誠に天地自然の道理に悖ッて居る、さういふ所の惡い風俗は一日も早くやめてしまッて本當の男女權を同うし夫も妻も同じ權利をもつといふ良善な風俗に變へなければならない」といふ。これは開けた人民の上に言ふときには其の通りで異論は無い。開けた人民でも男尊女卑の方がいゝといふ様な理屈はありャーしない。其の男女夫婦が同じ様になッたのは歐羅巴でも人民が開けて文明人になッて出來たことである。即ち文明人になッてさういふことが人間になッたのである。一體道德倫理といふものを天地自然のものゝ様に考へたのは甚だ間違ッて居る。孔子の說いた道德倫理が道理の有るものと思ひ耶蘇の說いた道德倫理が道理の有るものと思ふと間違ッて來る。智慧の進み開明の進むに從ッて違ッて來る。開けたときにいゝことが開けぬときには惡いことであり開けぬときにいゝときめて居たことが開けたときに惡いのがある。其れは開けぬときの人民が道德倫理を知らぬからだといふことでは無い。野蠻の人民が道德倫理を知らぬから道德倫理に反する様なことをして居たと思ふのが當り前だが進化論の方で言へば開けぬときには開けぬときに合ふ道德倫理があッて其れが入り用だ。開けぬときに開けたときの様な道德倫理は入り用で無いのみならず却ッて害がある。開けぬときの道德倫理は開けたときの道德倫理とは違ッて居る。開けぬときには今日の道德倫理に背けると思ふことが其の時分には却ッて道德倫理に合ふ様なことで今日善良だと云ッて居ることは開けぬ時分には却ッて惡いことだ。

例をあげて見ると今、國王だの政府だのといふ様なものが權力を專らにして人民を壓制するといふことは善くないことで決して天地自然の理に適ッたことでは無いといふ様に言ふ。さういふことは開けたときには惡いに違ひ無からうが昔は上に立つ人が下の人を壓制するのが却ッてよかッたのだ。其れは智慧が無かッたから、よいと思ッて居たのではなくて本當によかッたのだ。國王が權力を振ッて人民を壓制したのがナぜよかッたかと云ふと極野蠻の時には政府も何もありャーしない。政府も何も出來ぬ時分には殆んどバッパラの人間で丁度山に鳥や獸が群を為して居る様なもので、さういふときに一つの群を為して居るヤッとモー一つの群を為したヤッと喧嘩をするときには頭だッて統一する人が無ければならない。統一する人があッて其の命令を聞いてやッてゆく方が自然に強い。バラバラだと負けてしまふ。そこで統一する者が出來るときには其の者は全權をもッてしなければならない。また統一を受けるものも全權と力のある者に與へなければならない。さうしなければ社會を保つことが出來ない。其れから段々進んで來ても社會がかたいものにならぬ間といふものは權をもッたものが其の權をもッて其の社會の秩序を整へてゆかな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ければならない。さういふときには全權のある社會で無ければ決して發達してゆくことは出來ない。初めから人民の意見を聞いて公論に決するといふ樣なことをして往つては社會を整へてゆくことが出來ない。開けて來ると壓制といふ樣なことはいけないが開けぬうちは却ッてさうでないといけない。」また歐羅巴ではスレーヴ即ち奴隷といふものをギリシャローマの盛んな時分には使ッたことがある。其の奴隷といふものは大抵人間の權利を與へず殆んど無權利で生殺與奪の權といふものも其の使ッて居る主人にあッた。人間を奴隷にして使ふといふことは今日では惡いことゝ違ひ無いが昔では惡いといふ道理は無かッたに違ひない。昔しまだ開けぬときには何も彼もミンナの人民がやッたときには仕方が無い自由權を持ッた人民は奴隷に何をさせやうとも議論なしでさせることが出來る。自由を持ッた人は高尚なこと政治のこと學問のこと其の外宗敎のことなどに係ることをし而して今日の活計に付ての仕事は奴隷にさせる。開化の早く進んだといふものは必ず奴隷といふものを使ッて居ッたからである。而して其れを惡いこととしない。其れて其れが惡いことで無かッたに違ひ無い。其れだから奴隷を使ッたといふことも其の時分の人が奴隷を使ふといふことが道德に背くと思はなんだといふことでは無い、今から考へても其の時分は道德又は背いて居らないと考へなければならない。昔しの人が知らぬのでは無く全く進歩して來たのだ。決して天然自然のものでは無い。また敎法の例を出して見ると開けぬ人民には敎法は必要に違い無い。併し開けて來ると多少害を爲して來る。いつの世でも今の歐羅巴でも開けぬ人民が多いから敎法は入用に違ひない。其れだから開けた人には入用とは言へない。其れから開けぬ人や開けぬ身柄の人又は敎法といふものは眞に入り用なもので歐羅巴の耶蘇敎といふものは今までの開化に進む助けを爲して居るものに違ひ無いが開けて來てからは歐羅巴の理學の進歩に害を爲したことがイクラもある。併し宗敎がソコまでに理學を進めたこともある。歐羅巴の宗敎の嫌ひな人は總て宗敎は害を爲すものだといふが私はさうは思はない。佛法といふものもヤッパリ同じものに違ひ無い。佛法は耶蘇敎から見るとイクラか進んで居る樣ですが其の進んで居るのは哲學の部分に屬して居るもので宗敎の方の部分は三世の因果や地獄や極樂を說くからヤッパリ度が卑い。其れでも開けぬ人民には入用に違ひ無いが少し高尚のものは西洋の方に充分開けたから今役には立たない。併し宗敎の部分で愚民をさとすのは今でも入用に違ひ無い。ホップスといふ人が「敎法は丸藥の如し、マルノミにすべし、之を嚙みくだくべからず」といふことを言ッたが其の通りと思ふ。また獨逸のショッペンハイルは「敎法は螢の如し闇い所で無ければ役に立たない」と言ッて居るが其の通りで開けて來ると敎法は役に立たなくなる。

今までは前おき。これから男尊女卑の話しになるのだが其れも今言ッた道理で說いていかなければならない。男尊女卑といふことは今の時代では惡いに違ひ無いが昔はよかッたに違ひ無い。このことを話すに付て少し夫婦の起りの本から說かなければならぬが段々と近頃の學者の穿鑿で見ると昔は夫婦が配偶するといふことは無かッた。其れで初めは丁度禽獸が

群を爲す樣なもので夫婦といふものは進んで來てから出來たもので夫婦の配偶の無いときの風俗といふものは共同配偶といふもので、誰が誰の夫、誰が誰の妻といふことは無かったに違ひ無い。其れで極の純然たる共同配偶は今日は無く純然たる野蠻人は今日は無い。漸く人間になりたての少しも變化しない人民といふものは今日は無いから極の純然たる共同配偶の無いのも當然である。けれども共同配偶であったに違ひ無い樣な證據がイクラもある。其れは野蠻のときに夫婦の配偶するといふことの無い人民がある。其れはドウして分るといへば事があればコトバが起らなければならぬがさういふコトバが無いからには事が無いに違ひない。其れから妻と娘と區別することの無い人民もある。またアフリカには酋長は妻を持つことが出來るが其れより下のものは持つことが出來ない所がある。またアメリカのブラジルでは夫婦の配偶はするけれども客が來ると酒や肴を出す樣に女房を御馳走に出すことがある。其れから少し進んだ所でも夫婦は一生の緣といふもので無くて少しの間連れ添ッておきに離婚する所がある。子が生れるとモウ夫婦の緣を切るのもあり子が乳を飲まなくなると緣を切るのもある。夫婦一生の緣といふことは野蠻のときには無い。今の野蠻でなく昔の野蠻にもさういふことがある。プロシャの昔にも本當の配偶の無かったことがある。支那の歴史は古いことを書いたのは歐羅巴のナミの歴史よりはいゝが其れを見ると「天下ノ人母ヲ知リテ父ヲ知ラス」といふことだのまた伏羲の時に「嫁娶ヲ制ス」といふことだのあるがして見ると初めは共同配偶に違ひなかッた。母を知ッて父を知らぬのは共同配偶のタシカな證據である。また日本でも日本紀の景行天皇の所を見ると蝦夷の風俗がチョイと書いてあるがソコに「男女交居父子無レ別」といふことが書いてある。これで母は分ッても父といふものが別らないことが分ッて居る。ソンナ所を見るとモトは本當の夫婦はありゃーしない。

其れから夫婦がドウいふ譯で出來たといふことを研究しなければならない。其れは初めは同じ部落の女を自分一人の物にすることが出來ない。若し女と約束して自分の妻にするといふ樣なことをしたらば其れこそ大變である。ナゼかといへば其の時には共同配偶が道德倫理に適ッたことであるから若し一人で夫婦の約束をしたら其れこそ大罪を受けなければならぬ。今言ッた通り自分の部落の女を妻にすることは出來ないから妻がほしければヨソの部落から女を奪ッて來るより外に仕方が無い。さうすれば其の女は部落の共同物で無いから奪ッて來た者の勝手になる。其れからまた奪ふでなしに金を出してヨソから買ッて來るといふ樣なことも起ッて來た。其れは今でもオーストラリヤ新セーランド南アメリカなどには其の例がある。今日では實際奪ふ所は無いけれども婚禮の時に奪ふ式をする所がある。其れは昔は實際奪ッたのが今ではたゝ式に殘ッて居るのだが其の式も今に無くなるだらう。丁度男の乳が小さくなッて居るが今に無くなッてしまふのと同じことである。故に夫婦が出來た大本を考へて見ると暴力で出來たに違ひ無い。ルーボックといふ人は「夫婦の配偶と暴力と密な關係をもッたものだ」と言ッて居る。ソンナことから共同配偶がやんで一夫數妻（原語でポリガミー）と數夫一妻（原

語でポリアンドリー）といふものが出來る樣に進化した。其れで一夫數妻の方が多くて數夫で一妻をもつといふ方は少ない。國によつては兄弟で一妻を共有して居るものありまた兄の女房を兄が死ぬと次の弟の女房にするのもある。其れから一夫一妻（原語でモノガミー）は本當の開化になつて起つて來たものでこれは本當に開けて來たのだ。この一夫數妻と數夫一妻の二つが進んで一夫一妻といふものになつたのだ。けれども一夫一妻といふ樣にあらぬ一夫數妻數夫一妻といふ方は名こそ夫婦だが其の實は夫が主人で婦は下婢同樣であるから夫婦で權を同じくするといふ樣なことは少しもありやーしない。夫の權力が充分あつて妻はたゞ夫の命を奉じてゆくといふだけである。併し一夫數妻といふ中でも進んで來た所のマホメットの國だのトルコの中だのまたエヂプトだのでは一夫數妻といふものの本妻は四人限りとしてある。（妾は數を限らないが）先づ數を限つたのが限らぬのから見るとヨホド進んで來たのに違ひない。また其れよりも進んで來たのは支那であつて支那では本妻は一人でアトのは妾ときめてある。これは全くの一夫一妻にヨホド近いものになつて來た。併し本妻は一人ときめてあつても妾は數を限らぬから先づ一夫數妻に違ひない樣なものだ。そこで開けた國では一夫一妻に限ることゝだから其外の一夫數妻だの數夫一妻だのは惡いに違ひ無い。けれども其の風俗は其の時分は惡いといふことは出來ない。其の道理は前に言つた通り共同配偶の時は女が誰に屬するといふことが無いから壓制を受けるといふことはサホドひどくない。

（未完）

●佳傳

○クラテシクレア質となる事

スパルタの王レチコダスの后にクラテシクレアと云へる賢婦あり二人が中に擧けたる太子をクレチムチスと云ひ父に劣らず武勇の譽高かりけり然れば四隣と兵を交へて名を万馬の間に競ふとの止む時なければ思はざる難澁に會へる時も少からず或る時テシアと云へる所に戰かひたるがエヂプトの王トレーミーの援兵を乞はでかなはざる仕義となりて之を申通じたるにトレーミー快よく之を承引したりといへど其が代りに其母と子とを人質とし埃及に送れよとあるに當惑し久しく心に悶へ苦しみぬ母のクラテシクレアは吾子の何やらん連りに物ぐるしう持なすを見て安からず思ひつゝ機を見て之を問ひ質しければクレチムチス今は包むに由なく事の始終を物語りぬ母はきゝ了りて最と樂しげに打笑みたるが

汝が言ふに憚りたるは斯る事に侍るか然らば何故母を早く船に乘せて彼地には送り玉はざる年波立ちて此身を墓の下に埋めんには老躰何の役にも立ち申さじ左あらんよりは此の老ぼれたる身を早くスパルタ國の御爲とならん地へ送り玉ふに越したるとなし

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

と勵ましつゝ早や乘船の用意せよと命じぬ暫くありて船も備はりぬと申す母はクレチムチスたゞ一人を伴ひてテプチウンの殿堂に詣で涙にむせぶ吾子を腕み抱きながら

スパルタの王たる吾子よ吾等すでに出發せば最早何人も吾等の歎く樣をば見まじ吾等又た此の名譽あるスパルタ國の名を損すべきことをば決して爲さじ斯る事は皆な吾等の爲すべき務にて此の別離は神の御命なれば歎く可らず

と敎へ乍ら容姿をかひつくろひて年若き孫を抱きつゝ靜々と乘船し水夫ども一刻も早う船出せよと命じわたしぬ

斯て多くも立ざるに恙なう埃及に着しぬ玆にはトレーミーの優待もありたれど暫らくして吾子は此身の埃及にある故とて其敵と取結ぶべき平和の條約をも締結ばざるやに聞えければ母は直ちに文を送りたる其言の葉の中に

吾子よ何事にまれスパルタの利益となるやう又スパルタの名譽となるやう取計ひ玉ふべし年老ひたる一人の婦人と年若き一人の童子との爲め久しくトレーミーを憚れてなどあり玉ふ可らず

と云へり然れど後ち其子がトレーミーと遂に相協はざりしとて果敢なくも死刑の律にはかけられける

○松疇佳人傳（第八回）　月の舍志のぶ　錄

怪しの武士二十人餘り容謝もなく新太郎の枕頭に突立ち上り足もてハッシと蹶起しつゝ何如に家里盟に反く不義の天罰謹んで拜受せよと斬かけたり卒爾なれば敵するに途なくガバと起乍ら身を退くを迯す者かはと追かけつゝ肩先丁と斬下げたりあゝ惜しむべし此の秀才無慘の刄の露と消て忠魂永く望を達せず芳名何の日にか揚らん惜みても亦惜むべきとなり。此怪しの者等は抑も何人ぞ亦何如なる意趣ありてか遂に此に至れる今に至りて知る由なけれど察するに是れ彼の粗暴のハヤリ男等が新太郎苦肉の計をさとるの智なく大事を未だ成らざるの前に破りたる失策ありけんかし斯れば曩に櫻井能監君が發起して新太郎の遺稿を集め松疇文集と題して印行ありたる時三島中洲君の序文に此事をいと怪しまれたるも故なきにはあらざる也。斯て此夜深けたる比ろかの小勝は一大事を聞得て候へばと息せき來りたるに既に此事ありし後なれば慟哭そると半晌あまり悲痛人の見る目も忍ばれたり父は獄に死し母は病に先立ち今また一生の人を不幸の災にわたしぬ眇たる一少婦人を天は何如になし玉ふらんと怨みかこちたるが漸く々に思ひ直して綠髮を惜氣もなう斷ちはなち身を墨染の衣にまとひて行衛も知れずなりけるとぞ（大尾）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

吟光

○周茂才の妻

宋の周茂才とて有德ある人あり算勘に達して賣買を業とし貨をもうくる事夜に日に多く大福人の身となり乍らひそかに升と衡とものさしを二やうにこしらへ輕く細きを以てはかり出し重く長きを以て納むるゝほどに利潤甚だ强しその妻張氏は智慧たけて賢なる人なり形世にすぐれて心ざしあはれみ深し然るに妻は此有樣を見て大いになげく色あり其舅しうとめの前に行きてわれ此家の妻となり末久しくあるべしとも思はず若し其内に子を生みたらば子とともに家はほろびとがにわかれん時みづからが致しけるわざの樣に人の申さんも心憂かるべし家の亡は近きにあるべしたゞいとまを給はりて歸り侍らんと云ふ周茂才きゝて大に驚きはづかしく思ひ汝の云ふ所まことに天道のをそれあり災の來らむとは必らず遠からじ今より後はこの小さく細き升衡をうちわり棄つべしと云ふ妻の云くそれ未だ自らが思ふ心に足らざる事ありさて其二やうをば何年ばかり遣い來れると云ふ周才云く廿餘年このかたなり妻の云く自らを此家に止めて君が親たちに仕うまつらしめんと思ひ玉はゞ今よりして量り取るべきものは小升にて取り入に渡すときは大升にてはかり出し物を買ふ時は重きはかり短き尺にて取り賣る時は輕きはかり長きものさしにて渡し二十餘年の間これを以てさきのくらましける科をつぐのひ玉はゞ自ら此家にとゞまり侍らんと云ふ周才ふかく感じてかくの如くにせしかば家にぎはひいよ〳〵德つきて二人の子をまうけ學文させしかば幾程もなく禁中にめし出されて學士の官に登り家榮えけり

○昭陽人の恨

唐の玄宗皇帝の寵きさき昭陽人と申すは十六のとし初めて帝に參り玉ひしが楊貴妃に思ひかへられつゐに御幸もなければ昭陽殿の中にとぢこめられ春の日のながきにも秋の夜のながきにもたゞひとりのみあかし暮し六十の年までうれへなげきにしづみて形おとろへ齢かたふきつゐに空しくなり玉ひけり秋の夜ながし夜ながふして眠むるとなければ天もあけず耿々たる殘のともしびかべにそむけるかげせう〳〵たる暗き雨まどをうつこえと白樂天も詠じける

my noble father,
I do perceive here a divided duty:
To you, I am bound for life a education;
My life a education both do learn me
How to respect you; you are the lord of duty,
I am hitherto your daughter: but here's my husband;
And so much duty as my mother show'd
To you, preferring you before her father,
So much I challenge that I may profess
Due to the moor my lord. *Shakespeare.*

寄書

○田舍婦人改良の一端

埼玉縣新座郡新倉村　黒須りう女

粒大の雙眼を開き我國婦人社會を察するに次第に改良進歩の途に就き西洋婦人の地位に近よらんとす語を易へて之を言へば舊封建時代の臭氣を脫し婦人の眞價を顯はさんとする者の如し或は衣服の改良を論じて洋服に改らためられ以て我國古來の不便を脫却し或は束髮の利益を談じて以て丸髷島田髷等の弊習を捨て或は男女の交際親繁ならさる可からずとして以て婦人は境を越えずなどの不利を說き或は男女同權ならざる可からずと論して婦人は男子の附屬物たり玩弄物たるとの妄を辨じ其他或は妓樓廢すべしと論じ女子敎育せざるべからずと曰ひ婦人授產せざる可からずと曰ひ或は又婦人衞生は斯の如くすべしと勸告する等其有樣の活潑なる瞬時ゑして男子をして女子與みし易からず侮るべからずと言はしむるに至らんとするが如し誰か之を快とし之を賛せざる者あらんや然れ共亦首を回らして一方を觀察すれば斯る活潑ある情態は上等社會の專有にして未だ下等社會には布及せざる者の如し而して又上等社會と下等社會との數とを比較すれば殆んど一と十九の割合にして則ち婦人中上等に位する者は二十中の一分にして他は下等に屬する者なれば斯る活潑ある改良は實に婦人社會の一隅に行はれたる者と謂ふべし熟々我國下等婦人の情態を察するに眞に憫むべき地位に在る者にして毫も改良進歩の味を嘗めざる者の如し乃ち婦人は亭主の發赫の下に屈し亭主の命に是れ從ふ有樣は宛かも婢妾の主人の爲めに使役せらるゝか如きか座せと曰へば則ち座し起てと曰へば則ち起ち出てよと曰へば則ち出て入れと曰へば則ち入る土偶の人に於ける如きか夫れ然り焉んぞ衣服の改良を見るを得んや焉んぞ束髮の利益を聽くを得んや焉んぞ男女交際の必要を知るを得んや焉んぞ同權を唱うるを得んや焉んぞ又其他種々の改良進歩をなすを得んや之を以て次第に卑屈に陷り終には婦人は男子の附屬物たりと玩弄物たりと依信し毫も其苦痛と卑賤を曉らさるに至る而して智識少しく高等なる婦人に至ても敢て之を顧みる事なく反つて天地陰陽の妄理より益男尊女卑の風を固めんとするは猶ほ壓制政府の下に生活せる人民は其壓制に慣熟し毫も其非を了解せず君主の非道を見て有理となし君主の非を諫責するは反つて不忠不義大逆無道となし一朝諫責する者有れば名けて跳返（ハチツカヘリ）或は氣違と稱する者と異なる所なし豈浩歎すべきの至り且憫むべきの極ならずや然れども妾等の社會中二十分の十九は既に然る者の如し焉んぞ之を見捨てゝ顧みざる可けんや宜しく之が原因を討究して之を救はさるべからざるなり抑も此等の原因たるや種々にして或は男子の暴恣無學なるにも因らずんば有るべからずと雖も一は又婦女子の無智文盲なるに歸せずんばあらず故に之を救はんと欲せば宜しく數多の智識を婦女子に與ふるに如くはなし何んとなれは既に其權利義務を知らば其權利義務の自己に利益なるを察し必ず之を有せんとするは人情の常なればなり而して是等を知らしむるには種々の方便あり先づ貴誌の如き雜誌によらしむるも則ち可なりと雖も既に述べたるが如く我國の婦人は二十分の十九は大概下等なる者にして文字を解する者僅少なれば雜誌乃

ち文字的の方便は下等社會には關係なき者の如し左れば如何せば則ち下等に通ずべきか妾は演說を地方に開き以て之を知らしめんと欲する者にして乃ち言語的の方便を仕用せんとする者也而して其初や先づ地方の小都會地に於て之を催ふし最初に男女の權利義務を說き次第に衛生上等の事に至る迄懇々縷々之を演述し之を說明せば無智文盲なる婦女子も亦其辨論の有理なると其演述者の熱心に化せられ自から天然の權利義務を區別明辨するに至るべきか妾はレビット夫人の勇氣と熱心と信實なると愛國なるとに感じ近頃一の休日に際し近隣の婦人を會集せしめ其權利義務の一端を略述し且つ又信實愛國の情を見はしたれば大に感動の色を呈し爾後種々質問に來る者も生じたり之を以て之を推す地方に於て演說會を開き以て婦人の改良を圖るは蓋し至難に非らざるべし然れども地方の頑是なき男女等は此有樣を見て種々樣々の誹謗を設け之が障碍をなす有るべしと雖ども是等は一時又は古來の陋習に迷溺し其非を曉らざる者にして決して取るに足らざるの言のみ而して又親切の愛國なる貴婦等の取らざる所なるべし嗚呼妾等の最大急務は田舍婦人の改良に在り國家の其改良を圖るも亦婦人の改良に在り然るに貴婦等常に[illegible]の一小區域に偏居して地方に出張せざる所以の者は何ぞ貴婦等常に下等社會の婦人が境を越えざるの古跡を墨守するを見て其見解の不理なるを笑ふと雖ども今や一小區域に蟄居するの主義を取らば自から又婦人は境を越えずとの古跡を墨守する者にして鴉が其羽翼の悉く純黑なるを知らずして其仲間の黑羽黑翼なるを笑ふに異ならず豈前後矛盾の甚しき者にあらずやさても親しき貴婦方妾の所言を採納し進み進んで改良を田舍奧地の婦人迄布き及ぼすこそ願しけれ小事の爲めに撓み折れ爲すべき義務をなさゞるは如何に恥づべき事ならずや

●新報

○休業　今日のクリスマスを初めとして來年七八日の比に至るまでは諸の學校とも大抵は休業となるとならん就て各女學校の女生徒諸君に一言したきは此の休業と云へる者を尤もよく利用ありたきとなり凡そ物事には何にまれ皆な休と云へるとあり非情の草木にも尙は冬藏と云ひ心なき動物にも眠息と云ふあり況して人間には是非とも時々に休みて疲れ果てたる身躰を補はざる可らず此れ晝に夜あり過勞に病と云へるものあとある所以ならん然れば平常學校にて勉強し玉へる女生徒諸君は休業中又成るべく躰を休ませて其心を養ひ玉ふべし然らずして此の中も尙常の如く勉強してあらんとは是れ夜も眠らで書を讀むに均し支那流の教育にあらざるよりは決して宜しと賞むるものはあらざるべし特に女生徒は甞ても述べたる如く往々勉強を過して躰を痛むるの弊あるものゆへ休には可成心を安んじて清潔なる安息に日を消すやうに取扱ひ玉ふをよしとするなり尙ほ女學校にのみ寄宿して居玉ふ女生徒は兎角女らしき德を損して人情に迂遠なるの弊に陷り勝なれば凡そ休業の間は成べく其家に歸りて父母の膝元に住ひ瑣細の事とは云へ女の爲すべき家事向の心得方等を此間に見習ひ玉ふ

を宜しとす以上二事は殊更ら女の生徒方の心得玉ふべきとゆへ此際一言するもの也

○渡邊鼎君　束髪の主唱者として有名なる陸軍一等軍醫渡邊鼎君は來春早々米國へ渡航し四五ヶ月間滯留の後英國へ留學さるゝ由同君は本社の社賓にして兼て女學雜誌の爲め特別の盡力を賜はりたれば今度英米ゑ滯留さるゝ間は女學に關係の事項ハ何事にまれ惠報あるよしあり吾人は定めて有益なる報告を辱ふするを得べし

○女學校　飯田町の明治女學校にて去十五日より十八日に至る迄の定期試驗中には大隈重信君夫婦、中島とし子、ツルー、キダ、海老名彈正、等の諸氏來觀あり特に大隈夫人は生徒の學業大に進歩したるを賞して試驗に優等なる者への褒美として金十圓を寄附ありたる由。横濱百七十八番のフェリス女學校にては去廿二日和漢學預科十三名同本科二名の卒業生ありたり。麻布鳥居坂の英和女學校にては去廿三日閉校式を行れぬ同夜の景况は次號に記すべし

○女風の告諭　京都府にては去十八日左の如き告諭を爲されたるよし西京のクリスチアンボードより報告さる

從來婦人の剃眉涅齒及び結髪粧飾の風は啻に容儀の何如に係るのみならず衛生上よ妨害を與ふると尠からず然れども慣習の久しき自ら其妨害を覺へず徒らに外貌を修飾するとをつとめ老に及びて喩らす又其弊害を子孫に傳ふるに至る甚だ開明の風と悖れり宜しく厚く注意を加ふべし今其弊害を略擧すれば左の如し、眉毛は額上の汗の眼中に流入そるを扞ぐ之を剃れば視官に害あり、涅齒に用ゆる鐵漿は可溶性鐵鹽より成り加ふるに他の不潔物と混ず之を用ゆれば齒質を侵蝕毀損し往々種々の疾病を釀生す、毛髪は頭部を保護するの要具也京師の婦人は結束過緊にして毛根枯痩し易く毛髪早く脫落して頭部を覆ふに足らざるに至る且つ塗油を濫塗し腐敗すれば惡臭を放ち或は塵埃汚垢頭部の蒸發機能を妨碍し頭重、疼痛、精神不快を惹起す如此の弊害あるを以て自今婦女は老少相戒め剃眉涅齒するを廢し結髪を過緊ならざらしめ且つ度々毛髪を洗滌すべし。右上下區京内へ告諭す

○裁縫學校　京橋區山下町の平島喜平氏は今度同區內に一の裁縫學校を設立し教師には獨逸人某を聘せんとの計畫あり客ぽ其議も整ひ一月中旬には開校あるべき見込のよし

○顏色の黑白　顏の白きと黑きは固よりいろ〳〵の由縁より

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

起るとならんが宇都宮三郎君が此頃考付たまへる一ヶ條も亦た其理由の一つなるべし同君は名古屋にて雞の改良を施さるゝとき其近邊の雞卵は黃味うすくして價の甚だ安きよしを聽き此は牝雞が色をつくべき食物を食べざるゆゑならんと思付かれ多く菜類を與へさせたるに果して黃味多き卵を產むととあれりとぞ因て同君は其理を推し日本人の色の黑きは平常多く茶を飲むゆゑならんと考付きて其當否を試驗せんため先頃より先づ或る家の娘二人を雇ひ一人には牛乳、米、豆腐の如くすべて色なき食物を與へ一人には通常の料理を食はせ其顏色の何如になりゆくやを試驗さるゝよし此娘は初めより同じ程の容色なりと云へば遠からざるうちに黑白の相違を現はすに至るべきや否や其次第によりて彼の喫茶の爲め邦人の顏色黑うなるとの理由をも推測し玉ふなるべし面白き試驗なり

○養女の儀に付き指令　妻の實家の妹を養女となすは聞屆け苦しからすと相考候段其姉に對しては養母と稱すべきや將た姉妹の稱呼を存すべき儀に候哉との德島縣よりの伺に對し司法省は伺の趣は前段見解の通と指令せし由十二月十六日發兌の官報に見ゆ

○女學校設置　曾て評判有し當津女學校は愈々設立の事に決し此程舊城內丸之內藤堂高泰氏の舊邸を使用さる都合にて目今修築に着手されたりと(十二月十一日作新日報)

○知新女學校　は一ノ關中小路にありて熊谷語仙氏の私立に係るものなるが目下官廳員は勿論小學生徒に至るまで一同洋服を着用する事となりしゆゑ同氏は同校科目に洋服裁縫の一科を置かざるべからずとて從前の家事經濟算術裁縫禮式の四科へ更に洋服の一科を加へし處爾來入學申込の者も意外に多く今日に至りては五十餘名の生徒の內遠村より入校寄宿するもの十五六名もあるよし依て同氏は磐井郡有志の人々と圖り西山磐井各村戶長の同意を求め其筋に請ふて郡立となし郡內の婦女子を養成し且つ製造の物品は他縣へ輸出し一擧兩得の目的にて目下種々計畫中なりと去十二日の岩手日々新聞に見ゆ

○女生徒の洋服　德島縣德島女學校の生徒一同には過日より悉皆束髮と爲りたるが今度其服裝を悉く洋服に改めらるゝ由にて已に高等生丈けは此程より洋裝を爲し居れりと

○孝女イマの二百年忌　本年は本朝廿四孝中に其名の高き孝女イマの二百年忌に相當する由にて大坂府下大和國葛下郡竹ノ內村は同人の舊跡にして其遺物も今に保存しある者尠ず就

てハ同地の有志者が孝女於伊麻の追悼會を催し去る十二日をトして其碑前に於て弔祭の式を擧げ且つ同村の西光院ょ右の遺物を陳列して縦覧せしめたり

○支那の女　支那に於てハ男女の別を立つると甚嚴にして其の貴人社會に在りては縦令懇睦なる知友間に於けるも妻女を引合する如きとあらざるのみならず斯の如きハ禮儀を亂すの事と見做さるゝが故に各家必らず婦女の居所の爲に特別の室房を設け之を内室と稱す即一家の婦女たるものは此の室内に在りて其の業務を修め終日他に出ざるを常とす故に支那人をして外國婦人の舞踏の如き乘馬の如き滑橇の如き又は打球の如き各種の活潑なる遊戯を爲すを見ば其の感驚果して何如なるべきか又欧洲人が婦人を尊敬するの風俗の如きも支那人より之を見るときは必らず欧洲男子ハ婦人の奴隷なりと云はん支那に於ては斯の如く婦人を賤むるの慣習ありと雖も却て婦人中往々才智秀英なる者を出し芳名を史乘に留めたるもの少からず

支那人ハ婚姻を以て人世の大儀とす而して其の方法に至りてハ欧洲人の思想に適合せざるものあり即ち彼の開明國に於て男女の間に行ハるゝ諸種の婚姻豫契法の如きハ毫も支那人の知らざる所ょして一言以て支那の婚姻法を評すれば甚冷淡を極むるものと謂はざるべからず今其結婚の手續を略記せんに男女の結婚年齡を定めずと雖大抵男子は二十歳にして娶り女は十七歳にして嫁するを常とす例へば玆ょ一家あり其の男子結婚の年齡に及ぶときは其父躬ら知人の間に奔走捜索して略新婦を判定すと雖直接の約を以てするは支那禮法の許さゞる所あるを以て特に所謂媒妁人ある者に依賴して此の事を周旋せしむ蓋此の媒妁人ある者は概ね寡婦にして恒に此の事を周旋するを以て專業となすの徒なり而して此の媒妁婦は辯舌を以て處女の家親に說き以て婚儀の成就を謀る若し其談整ふときは雙方の親相會合して諸般の事を調理す而して偕老の契を爲すべき本人の如きは結婚式の日を以て初めて相互に其の容貌を知を得るものあり又婚姻は大禮なるの故に最多額の費用を要する者にして此の費用のために永久負債に苦む者寡からず余の知人の如きは一月二弗の收入ある者にして此の儀式に四五十弗を費せしとありと云ふ(本年十一月廿四日官報抄出)

○萬國婦人禁酒會年會　本年の年會は第十三回に當り豫定の如く米國ミンチソダのミンニアポリスにて去十月の廿二日より廿六日に至る五日間に開かれたる筈なり吾人は當日の景況

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の細報を次回の便船にて承知し得べき日割あれど先づ其の定めの大略を見るにそれ〴〵の會議ありたる後ち博士クルロック氏の食物及衣服の演說、ブラッドレー夫人の社會道德論、並に例の如く會頭ウイルラルド嬢の年回演說等あるよしと云へば當年も亦面白き決果を見得るとあるべし

○日本官吏女工に驚く　として去月廿七日のハーパースバザルに見へたるは何人に座すらん日本の官吏と見ゆるが去る頃フヒラデルフヒアの造幣所に至り婦女子が多く造幣の仕事に從事するを見て太たく驚きたる由を云へるなり右造幣の事は余程勞力忍耐等を要する務あるに之に女の從事するを見て驚き玉へるは蓋し故なきにあらず

○ビスマーク侯の夫人　同夫人は品格高けれども仕打は並々の妻君の如くよく俗に通じて心意氣甚だ宜しビスマーク侯も太たく之を敬愛し玉ふ由なれどもたりとて人に高ぶりたる風も見へず凡そ之に近侍したる者は皆な夫人を愛し奉るよし米國のインデペンデントに見ゆ

○米國の女小說家　中の王と呼ばるゝウールソン嬢は甞にアンチ。フホー、ゼ、マヂヨウル。など云へる小說を著して評判甚だ高かりき作者あり世上には之を米國の女作者中第一となし英國のゼヂヂエリチツトにも並び得べきものとなせり然るに近頃又々イーストエンゼルスと云へる小說を作られたる趣にて彼地の新聞には批評はなはだ多し

○露國私立女大學　モスコー府にては私立の女大學を設立せんとの計畫あり而して若し政府の准許を得ば數學、理學(醫學科を設く)、博言學の三科に分たんとの目論見のよしユニチンシグナルに見ゆ

○妻の財產　夫婦財產の關係に付てはいろ〳〵の議論もあり又現に各國其制度を殊にするとあるが去月のアトランチツクモンスリー雜誌にクツク氏が寄せたる論文中現今實行する各國の妻產條例を擧げたり今其の中を抄出すれば

英國にては夫婦產を別にすれども妻の財產は夫之を保護管理し且つ其幾分より收納すべき利益を受取るの制あり

露士亞、アウストリヤ、日耳曼の諸邦、及スヰツツルランド等にて亦た夫は妻の財產を管理すべき法定あり

コンネクチカツト、イリノイス、アイヲワ、ヲレゴン、ワシントン、アラバマ、ニウメキシコ、等の諸州にては夫婦全く產を別にし家内の入費及び教育費はとも〴〵に分け持となせり

社告

●特別廣告の事

弊社は各地に出來する女學主義の會合近時に至り彌よ增加するを祝賀に欣賀す故に可成其會合の運動を精細に記錄し女學雜誌上に報告せんとを欲すれども本誌は固と紙數に限わるを以て悉く之を收載する能はず故に其運動の全躰の女學に關係ある部分は必ずこれを掲げたると讀者の夙に承知せらる丶處あるべしと雖も事のた丶其會員のみに報告すべき者は常に之を容るしたり然るに是れ素と弊社の望む所にあらず特には各會合をして互に運動を詳知せしむるの便を欠くべし依て弊社は此度特別廣告の一欄を設け左の方法に隨て如此き記事を精細に收錄し得べき便を供ふべし

一 女學主義の各會合に於て記錄すべき事件例へば何月何日集會の事、同時に々等演說の事及其筆記、會員の增減出入及び報道、役員撰擧會計出納の事、の如き凡そ事の細大を問はず總て其會中より記臆すべき者は悉く弊社に報告を乞ひ其中我國全躰の女學上に關係ありと認るものは新報欄内に收め其餘は廣告欄内に掲ぐべき事(但し別に新報欄内に收るを望まざる可は新報欄内に只だ其の指示を記し特別廣告の部に所望の如く錄すべし)

二 右特別廣告の欄内より揭ぐる者は只だ報告の儘を直ちに收錄するが故に弊社は其事の是非得失には一切義務を負はざるべしと雖も總て不道德の事と認る事件は之を謝絕して揭載せざる事

三 特別廣告の欄内に掲載する者に對しては總て廣告料を要せず但し特に之が爲めに紙數を增加するが故に左の方法に隨ひ實費の償却を要すべき事

二十七字詰三十五行を一段とし各會合の報告を收るには必ず段を以て限とすべし(例へば一段二段若くは三段中に收め之を半段中に揭ぐるとを爲さず)

右一段中に收むべき報告を寄送わる會合は之を揭げたる女學雜誌十部以上の注文を要し其餘は一段每に注文十部を增すべし

四 右特別廣告は各會合の運動を其會員中に報告し得ると共に女學雜誌を購讀する數多の讀者に之を廣告し得るの便利有之候也

廣告

女學雜誌 **切手** は五冊以上何冊分にても差出し候歳暮年玉の御遣物には至極適當の品と存じ候

東京新橋日吉町八番地 女學雜誌社

時事に感ずる所ありて私立幼年學校の設置を府廳に願ひ地を神田區今川小路壹丁目壹番地に卜し泰西の新主義より則り體智德育の普及を計り幼童少女の薫陶に熟達せる米國婦人パラ氏及業を外國人の設立せる英學校に卒へたる本邦人男女二名の教師を聘し六才以上十二才以下の男女三十名を限り親切丁寧に小學科及英語科を授け傍ら歐米の禮儀作法等を教へんとす有志の父兄は本月中に御申込有之度候

服部綾雄

船橋鼎太郎君著

産婦小兒 攝生法 (新著) 一冊十八錢郵送税四錢

右は産婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を鑑み專ら當今の養生法其道を盡さゝるとを教へたり故に月經の心得より、姙娠したるか否やを知ると、出產の日期を知る法、姙娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ乳を飲まする間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことごとく信切に教へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の牛子を誤りて取扱ひ玉ふやうのとなからんを希ふ

(出版兼發賣) 新橋日吉町八番地 女學雜誌社

基督教新聞 第百七十八號(十二月二十二日發兌)

○宗教上の疑○基督教主義の學校を論ず○教報十件○論說○基督教證據論(小崎弘道)基督の十字架(海老名彈正)○雜報及社評○英文教報○廣告●一冊三錢每水曜日發行

東京京橋區瀧山町六番地 警醒社

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

繪入女學新聞

毎月三回發行●定價壹部金貳錢●十部前金拾八錢●府外は郵税申請ク

●第一號本月廿五日發行

方今天下の諸雜誌多くは單に男生に裨益する者に止りて女學を益する者に至りては殆んど一二の雜誌ゞ止るのみ本館夙に茲に感ありて今般女學に相ひ適する一新聞を發兌せんとす記事は主として女流の手に成る書畫詩文歌論説孝女節婦傳記(挿繪)學説雜報總て女子に關し裨益すべき事及び廣告等を採録し記事を平易にし定價を尤も簾直となし勉めて女學者流をして遺憾なからしめ益々以て女學を振興し相共に國家の爲に盡さんとす幸に各裙愛顧を給へ日本御入用の方は郵券三錢送附次第直に遞送すべし

東京神田區五軒町壹番地

發行所 郁文館雜誌局

湯淺爲太郎著

一珠算乘除法 手數半減 全一册

實價八錢

本書ハ著者多年小學珠算教授ノ困難ニ感シ發明スル所ニシテ乘算九々チ知ルトキハ如何ナル算ハモ出來得ル方法ニシテ且ツ位取等ノ煩ナク手數モ亦半減ナレハ小學生徒ハ勿論神速簡便チ尊フノ人ハ必讀スヘキ良書ナリ

埼玉縣北足立郡鴻巣宿 發兌書林 長島爲一郎

東京府下及埼玉管内 販賣書肆 書林一般

添註 **土佐日記俚言解** 小中村清矩校閲 佐々木弘綱註解 ○金四十錢 ○全二册

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 ○金四十錢 ○全二册

文話 鈴木弘恭先生著述 三大人批評并小序 上下 合本(完) 定價金四十錢 郵税六錢

此書は古事紀出雲風土記祝詞式續日本紀竹取物語空穗物語伊勢物語源氏物語枕草紙土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓坐省筆等の簽を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黒川眞頼小中村清矩田中頼庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の摸範とす可き良書なり

本郷區春木町三丁目十四番地 文苑堂 取次 女學雜誌社

定價

一册。五錢 郵税。一錢 (但府内無郵税)
十册。四十八錢郵税。十錢 (同前)
廿册。九十錢 郵税。廿錢 (同前)
卅册。一圓卅錢郵税。卅錢 (同前)

一ヶ月分女學雜誌代價十五錢 府外ハ十八錢
二ヶ月分同 三十錢 府外ハ三十六錢
三ヶ月分同 四十五錢 府外ハ五十四錢
半年分同 八十八錢 府外ハ一圓六錢
一年分同 一圓六十錢府外ハ一圓九十六錢

廣告

一行 (廿七字詰) 一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社説の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町 巖々堂
東京芝西久保櫻川町 萬春堂
東京神田區雉子町 同々社支店
同神田區佐柄木町 東海堂
同日本橋區新葭町 良明堂
同京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同本郷區元富士町 盛春堂
同本郷區春木町二丁目 解明堂
京都四條通小橋へ入 澤集光堂
同三條通東洞院西へ入 クリスチアンポード
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地 伊勢安支店

發行所 東京京橋區日吉町八番地 本局 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 8 Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 ○○ 全二冊 金四十錢

文話 鈴木弘恭先生著述 三大人批評并小序 上下 合本（完） 定價金四十錢 郵税六錢

此書は古事紀出雲風土記祝詞式續日本紀竹取物語空穂物語伊勢物語源氏物語枕草紙土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓坐省筆等の簽を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黒川眞頼小中村清矩田中頼庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の模範とす可き良書なり

本郷區春木町三丁目十四番地 文苑堂 次取 女學雜誌社

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

京都四條通小橋へ入 澤□集光堂
同 三條通東洞院西へ入 クリスチアンボード
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地 伊勢安支店

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

繪入女學新聞

毎月三回發行●定價壹部金貳錢●十部前金拾八錢●府外は郵稅申請ノ

●第一號本月廿五日發行

方今天下の諸雜誌多くは單に男生に稗益する者に止りて女學を益する者に至りては殆んど一二の雜誌に止るのみ本館夙に茲に感ありて今般女學に相ひ適する一新聞を發兌せんとす記事は主として女流の手に成る書畫詩文歌論説孝女節婦傳記（挿繪）學説雜報總て女子に關し裨益すべき事及び廣告等を採錄し記事を平易にし定價を尤も廉直となし勉めて女學者流をして遺憾なからしめ益々以て女學を振興し相共に國家の爲に盡さんとす幸に各君愛顧を給へ見本御入用の方は郵券三錢送附次第直に遞送すべし

東京神田區五軒町壹番地

發行所 郁文館雜誌局

湯淺爲太郎著

一珠算乘除法 手數半減

全一冊 實價八錢

本書ハ著者多年小學珠算教授ノ困難ニ感シ發明スル所ニシテ乘算九々チ知ルトキハ如何ナル算ㇾモ出來得ル方法ニシテ且ツ位取等ノ煩ナク手數モ亦半減ナレハ小學生徒ハ勿論神速簡便チ尊フノ人ハ必讀スヘキ良書ナリ

發兌書林 埼玉縣北足立郡鴻巣宿 長島爲一郎

販賣書肆 東京府下及埼玉管內 書林一般

添註 **土佐日記俚言解** 小中村清矩校閲 佐々木弘綱註解 ○金四十錢 ○全一冊

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 ○金四十錢 ○全一冊

文話 鈴木弘恭先生著述 三大人批評并小序 **上下** 合本（完）定價金四十錢 郵稅六錢

此書は古事紀出雲風土記祝詞式續日本紀竹取物語空穂物語伊勢物語源氏物語枕草紙土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓坐省筆等の發を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黑川眞頼小中村清矩田中頼庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の模範とす可き良書なり

本鄕區春木町三丁目十四番地

定價

一冊。五錢	郵稅。一錢	（但府內無郵稅）
十冊。四十八錢	郵稅。十錢	（同前）
廿冊。九十錢	郵稅。廿錢	（同前）
卅冊。一圓卅錢	郵稅。卅錢	（同前）

一ヶ月分女學雜誌代價	十五錢	府外ハ十八錢
二ヶ月分同	三十錢	府外ハ三十六錢
三ヶ月分同	四十五錢	府外ハ五十四錢
半年分同	八十八錢	府外ハ一圓六錢
一年分同	一圓六十錢	府外ハ一圓九十六錢

廣告

一行	一回 （廿七字詰）	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町 巖々堂
東京芝西久保櫻川町 萬春堂
東京神田區雉子町 開々社支店
同神田區佐柄木町 東海堂
同日本橋區新葭町 良明堂
同京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同本鄕區元富士町 盛春堂
同本鄕區春木町二丁目 解明堂
京都四條通小橋へ入 澤集光堂
同三條通東洞院西へ入 クリスチアンポード
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地 伊勢安支店

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō.

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

台

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY